道徳基盤理論を基にした小学生用道徳性尺度の作成

Development of morality scale for elementary school students based on moral foundation theory

井原　賢一，池田　誠喜

IHARA Kenichi, IKEDA Seiki

鳴門教育大学学校教育研究紀要

第35号

Bulletin of Center for Collaboration in Community
Naruto University of Education
No.35, Feb, 2021

原著論文

鳴門教育大学学校教育研究紀要　35，147－154

道徳基盤理論を基にした小学生用道徳性尺度の作成

Development of morality scale for elementary school students based on moral foundation theory

井原　賢一，池田　誠喜

〒772-8502　鳴門市鳴門町高島字中島748番地　鳴門教育大学大学院
IHARA Kenichi, IKEDA Seiki
Naruto University of Education, Graduate School
748 Nakajima, Takashima, Naruto-cho, Naruto-shi, 772-8502, Japan

抄録：本研究は，小学生の望ましい発達にかかわる道徳教育の効果を測定するために道徳基盤理論を基にした小学生用尺度の作成を試みたものである。調査対象は公立小学校４～６年生計251名であった。因子分析の結果，「思いやり」「周囲への敬意」「仲間への配慮」の３つの下位尺度で構成された尺度が作成され，尺度の妥当性と信頼性が確認された。

キーワード：道徳教育　道徳性　道徳基盤理論

Abstract：In this study, in order to measure the effect of moral education on the desirable development of elementary school students, we developed a scale for elementary school students based on moral foundation theory. The subjects of the survey were a total of 251 students in the 4th to 6th grades of public elementary schools. The results of a factor analysis form a questionnaire survey revealed that a scale of three factors was created: “compassion”, “respect for the surroundings”, and “friendliness of peers”. The validity and reliability of the scale were confirmed.

Keywords：moral education , morality , moral foundation theory

1　問題と目的

⑴　道徳科の授業改善への課題

深刻ないじめの解決，地域や家庭の教育力の低下，正解のない曖昧模糊とした時代への対応が求められる中，道徳教育の果たす役割への期待は大きく，平成30年に「特別の教科　道徳（以下，道徳科）」として教科化された道徳科は，人間としてよりよく生きようとする人格的特性である道徳性を養うことを目標とする道徳教育の要として，道徳性を構成する諸様相としての道徳的判断力，道徳的心情，道徳的実践意欲と態度を養うことを目標（文部科学省，2017）とし実践されている。

さらに，学習指導要領解説（文部科学省，2017）は，道徳科における評価とその意義について，児童が自分自身の成長を振り返る契機となるとともに，教師にとっては指導計画や指導方法を改善する手掛かりとなるものであることを示している。具体的には，児童の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し，指導に生かすよう努め，数値などによる評価は行わず，授業を通して学習状況を評価するものとしている。

児童に対する評価は，評価のフィードバックなどを考慮すると，成長発達への寄与と道徳的価値教育の視点からも十分理解できる。一方で，評価の基本的態度として，指導前と指導後の児童の実態の把握に努め，確かな児童理解に基づく道徳性の評価を心掛ける必要性が指摘されているとともにその判断が容易でないことも示されていることから，授業の効果検証による指導の改善については，より客観的な指標が求められるものではないかと考えられる。

道徳性の評価に関連する研究はこれまでにも数々行われているが，その評価方法についても標準化されているとは言えない状況にある。理由として道徳性の定義についての多面性が挙げられる。学習指導要領（文部科学省，2017）では，道徳性とは，人間としてよりよく生きようとする人格的特性であり，道徳科では道徳性を構成する諸様相である道徳的判断力，道徳的心情，道徳的実践意欲と態度を養うことが求められている。道徳性の内面的資質とされる道徳的諸様相がどのようなものかは学習指導要領解説で示されているが，一般的には分かりにくい点もある。他方，道徳性の捉えとして，新村（2018）が編集した広辞苑第七版では，道徳性を道徳の本質と示しており，「道徳は人のふみ行うべき道。ある社会で，そ

の成員の社会に対するあるいは成員相互間の行為の善悪を判断する基準として，一般に承認されている規範の総体。法律のような外面的強制力や適法性を伴うものでなく，個人の内面的な原理」としている。また，加藤（1989）は「社会の側で作られた基準や規範を個人がどのように取り入れ，内面化し，適応していくのかという意識や能力や傾向」と教育心理学の視点から述べている。このように様々な分野（倫理学，社会学，生態学，進化学，発達科学，認知学，神経学など）において道徳性が研究されている中で，道徳性の捉えが一様でないことが指摘されている（青山，2018）。

⑵ 道徳性のアセスメントツール

これまでに，道徳教育の効果成果を客観的に把握しようと試みた実践報告として，秋田市立八橋小学校（2014）が道徳教育の効果検証として，保護者に内容項目ごとに児童の「成長したこと」「身に付いたこと」を答えてもらうアンケートを実施し，内容項目に対しての成長を保護者の視点から把握しようとした取り組みが挙げられる。また，道徳性を測るものとしては Defining Issues Test（以下，DIT）（Rest, 1979）が知られており，山岸（1995）が日本語版を作成している。これはモラルジレンマにおける判断基準を尋ねるものであり，道徳的諸様相のうち道徳的判断に注目したものである。また，堀田・假屋園（2006）は児童版道徳性共感的側面尺度の開発を行っている。３つの尺度で，子どもの「助け合い」の心を測定している。和田・石川（2015）は Hogan（1973）の理論を参考にしながら，道徳性の人間性，法の順守，自律性，共感性の４つの下位概念を見出している。これは，青年期を対象とした尺度であり，小学生に行うには「道徳的知識」の概念も必要であることに言及されている。手島・安保（2017）や崔・長島（2019）は学習指導要領の内容項目に沿って，中学生の道徳性を測る尺度を作成している。特に，道徳教育に関わる標準化された尺度として，押谷（2018）「道徳性アセスメント HUMAN」「道徳教育アセスメント BEING」古畑（1992）「道徳性診断検査 HEART」杉原（2018）「TK 式 TMT 思いやりと豊かな心を育てるワーク」などが挙げられる（表１）。

BEING は年間３回まで利用ができるものの，それ以外は１年間に１回の利用を想定していること，道徳的判断や道徳的心情などの，道徳性の一部を測定しているものである。ただし，測定するには１人１回あたり500円余の費用がかかるため，学校現場では気軽に活用しづらい点がある。

⑶ 進化心理学による道徳性の捉え

近年，Haidt（2012）は進化心理学に注目して，新しい道徳性の方向を示している。道徳性は人類が同じ社会に帰属する他者と協力する環境の中で，進化適応するために獲得されたものであり，生得的な人間の特徴を表わしているとしている。また，これまでの研究は，欧米の一部の層の人たちを対象にしたものである点も指摘している。Haidt の主張の１つに「まずは直観，それから戦略的な思考」というものがある。例えば，幼い子供が傷つけられている様子を見たら助けたいという感情が生まれる。どうしてその子供を助けないといけないかというような思考はその後に生まれてくるものであるというものである。

また，Haidt ら（2013）は，道徳性は，人類が進化の過程で，問題や何らかの好機を引き起こす様々な現象に適応した結果，獲得されたスイッチのようなもの（モジュール）であるとしている。さらに，道徳性は一元的なものではなく，「正義心は６つの味覚センサーを備えた舌のようなものだ」というたとえを使って，「道徳基盤理論（モラルファンデーション）」を提唱している。６つの基盤というのが，「ケア／危害」「公正／欺瞞」「自由／抑圧」「忠誠／背信」「権威／転覆」「神聖／墜落」である。青山（2018）がこの理論が画期的である理由は，「この理論によって，道徳性というものが概念的なものではなく，実体的なものとしてとらえるようになった」ということを指摘している。さらに，この道徳基盤理論の特質として，青山（2019）は「人間に生得的に備わり，それぞれが異なるモジュールとして機能している基盤のようなものとしてとらえられ，成長の過程で所属する社会や文化に大きな影響を受けながらも，道徳的判断を要する局面において，思考というプロセスが働く前に，直

表１　標準化された尺度の比較

HUMAN 道徳性アセスメント	BEING 道徳教育アセスメント	HEART 道徳性診断検査	TK 式小 TMT 思いやりと豊かな心を育てるワーク
学習指導要領の４つの視点，内容項目に対応し，道徳性の諸要素のうち，「道徳的心情」の理解と，「道徳的判断力」の傾向を把握する。	道徳性の育成に必要だと考えられる「共感する力」「振り返る力」「前向きにとらえる力」の把握。 問題場面での気持ちと行動のバランス。学習生活の自己チェック。学級風土。道徳科授業。問題場面における多面的・多角的な思考。	道徳性の下位尺度「思いやり」「自己確立」「生活規範」について，内面形成と行動傾向を把握する。	道徳的心情の下位尺度として「思いやりの心」「ルールを守ろうとする心」「感動する心」を把握。 学習指導要領の内容項目に応じた，道徳的心情と判断を把握する。
生活の中で多く見られる場面において，子どもたちがどう感じ，どう判断するかを問う。	「失敗しても，また頑張ればできるようになると思う」などの質問項目。他，問題場面での心情と行動を聞く問いなど，多様。	問題場面での登場人物の思考を４つの選択肢から選ぶ。 「友達との約束を忘れる」などの行動傾向を問う。	問題場面での登場人物の思いと，自分がその立場だったらどうするかを問う。

観的な判断をもたらしているのではないかと考えられている。」として，生得性，文化的学習，直観性，多元性の４つの主張がされているとしている。

６つの基盤のうち，「自由／抑圧」基盤を除く５つの倫理基盤を測るために，Haidt ら（2013）は Moral Foundations Questionnaire（以下 MFQ）を作成した。それを基に，金井（2013）が日本語版を発表している。この MFQ は文化的な影響を受けないものとしているが，村山・三浦（2019）は多少の文化差を受ける可能性について指摘している。また，小杉（2012）や本田ら（2016），北村（2019）は MFQ を日本人に実施した結果の因子構造について，元々の５因子構造とは異なったものの方が適当であるとしている。

学校での道徳教育は，Haidt（2012）の主張する中で「文化的学習」と関連性が高い。Haidt（2013）は「道徳は生得的なものであるとともに，特定の文化のなかで生得的な本能を適用する方法を学習していく。」としている。学校教育で道徳教育を実施する意味がここから読み取れる。道徳基盤理論を基にした尺度を活用することで，道徳教育において，生得的な道徳性からどのような成長が見られたかを測ることができると考える。

⑷　目的

本研究では，道徳教育での児童の道徳性の状況を把握するため，Haidt の理論を基にした小学生用の道徳性尺度を作成することを目的とした。道徳性を Haidt の主張で捉え，その状況を把握する尺度を開発することで，道徳教育の研究に役立てることができると考える。

2　尺度作成の方法

⑴　予備調査

道徳基盤理論を基にした尺度作成の項目選定にあたっては，金井（2013）の日本語版 MFQ，曺（2018）の作成した項目，藤澤（2015）が Haidt らの作成した表に追記したものを主に参考にした（表２）。

日本語版 MFQ は対象が成人であるために，小学生には難解である。また，「殺す」「貞節」などの小学生に尋ねるには適切ではない表現が多い。そのため，原文から，「思いやり」「誠実」などの趣旨を見出し，日本の学校教育に合った表現を検討した。また，それぞれの基盤の内容に沿って項目を作成した。

予備調査は，2020年６月上旬に５年生94名を対象に40項目５件法により質問紙調査を行った。多くの項目で，質問文の望ましいと思われる方向に回答しようとする傾向が見られた。萩生田・繁桝（1996）は因子分析を行う際には５件法か７件法が望ましいとしているが，本調査ではより傾向を詳細に分析するために７件法を用いることにした。また，集中が保てなかった児童が見られたため，質問数を精選し，逆転項目の質問を増やすこととした。「自由／抑圧」に関しては，暫定的に取り上げられた基盤である。道徳基盤理論について大規模調査を行っている，ウェブサイト www.moralfoundations.org（Iyer, 2011）では，現在でも，暫定的に取り上げられている形になっている。適応課題「支配や抑圧を避けること」という内容が，内容項目にある道徳的価値とは異なると考え，本調査ではこの基盤を除いた。

また，本調査に向けて項目の文章を改めるときに大切にしたことは，児童の考えを反映させることである。児童と質問紙の内容について話し合ったところ，質問の意味そのものが分かりづらくて答えにくかったものや，言葉が難しいと指摘があった。例えば，「誰も傷つかないうそ」の表記について児童から，「いいうそでも，うそをついていることにはかわりがないから，もやもやした気持ちが残る。」「私は，いいうそなら，スッキリする。」と意見が交わされた。このように，子どもの声を参考に項目を改訂した。

⑵　本調査の項目選定

予備調査の結果を踏まえて項目の再検討を行った。用いる道徳基盤は「ケア／危害」「公正／欺瞞」「忠誠／裏切り」「権威／転覆」「神聖／戯れ」の５つである。

⑶　妥当性の検討

項目が児童にとって十分理解ができるか，教育学を専門とする大学教員１名と現職大学院生１名，経験年数２～19年の現場教員２名で検討を行った。最終的に28項目が選定された（表３）。

⑷　調査対象

Ａ県内の中規模小学校４～６年生，及びＢ県内の中規模小学校５年生の計251名を対象に質問紙を実施した。内訳は，Ａ県４年生男子24名，女子19名，５年生男子47名，女子44名，６年生男子27名，女子26名，Ｂ県５年男子27名，女子37名であった。

⑸　調査時期

Ａ県小学校では６月中旬～下旬に，Ｂ県小学校では７月下旬にかけて実施した。

⑹　調査材料

小学生用道徳性尺度（表３）を用いた。７件法とした。回答肢は，「まったくあてはまらない」「あてはまらない」「あまりあてはまらない」「どちらともいえない」「少しあてはまる」「あてはまる」「とてもあてはまる」とし，１点～７点を与えた。

表２　６つの道徳基盤

	ケア／危害(A)	公正／欺瞞(B)	忠誠／裏切り(C)	権威／転覆(D)	神聖／戯れ(E)	自由／抑圧(F)
適応課題	子どもを保護し，助けること	双方向の協力関係から恩恵を受けること	集団の凝集性を高めること	階層内部で有益な関係を築くこと	汚染を避けること	支配や抑圧を避けること
原初的トリガー	自分の子どもが苦痛や被害，困窮を訴えること	欺瞞，協力，偽り	集団に対する脅威や挑戦	支配と服従の兆候	廃棄物，病気にかかった人	暴君，君主
現在のトリガー	赤ちゃんシール，漫画の癒し系キャラ	結婚生活での貞節，自動販売機の故障	スポーツチーム	社長，評判の高い専門家	タブーの観念（共産主義，人種差別）	自由の制約，政府の干渉
特徴的な情動	同情	怒り，感謝，罪悪感	集団的自尊心，裏切りへの憤怒	尊敬，畏敬	嫌悪	抵抗，怒り
関連する徳目	ケアすること，親切さ	公正，正義，信頼	忠誠，愛国心，献身	従順，敬意	節制，純潔，信念深さ，清潔	自由，平等

(7)　調査手続き

Ａ校においては，担任の存在が回答に与える影響を少なくするために，研究者が児童に対して調査の趣旨を説明し，研究目的に限定して結果を使用することを説明し，児童が思ったままを答えることができるように配慮して実施した。無記名方式で学級ごとに集団調査を行った。Ｂ校では，研究者が教師に趣旨を説明し，児童が思ったままを答えることができるように配慮することを求めた。回答に要した時間は約10分であった。

分析にあたっては，SPSS ver. 25によって処理が行われた。

3　結果

(1)　因子構造

測定項目の28項目について，主因子法により因子分析を行った（表４）。初期解の固有値の推移（7. 38, 2. 13, 1. 38・・・）であり，固有値が１以上で，スクリープロットによる確認により３つの値（1. 38）以降緩やかに変化していることから，３因子解が適当であると判断した。そこで，因子数を３に固定し，因子分析を実施した（主因子法，プロマックス回転）。因子負荷量が．40未満の14項目を除外し，再度因子分析を行い，最終的には，３因子14項目を採用した。この３因子の累積寄与率は44. 60％であり，一定の説明率を有するものと考える。

第１因子は個人内の感情についての項目である。「けがや病気で苦しそうにしている子を見ると，自分まで苦しくなってくる」「人が嫌な思いをしていると，自分も悲しい気持ちになる」といった他者への共感，「困っている人がいたら助けたくなる」「泣いている子がいたらなぐさめたくなる」といった保護，「しょうがなくうそをついたときに，心にもやもやした気持ちが残る」というような危害への後ろめたさに関する項目である。友達や年下の子に対しての気遣いや助けたいという思いに関する項目内容であることから，この因子を「思いやり」と命名した。

第２因子は，個人と集団との関わりに関する項目であり，敬意とともにその集団をよりよくしたいという思いに関するものである。例えば，「朝礼などの校長先生の話すことは，いつもよく聞くようにしている」という項目であれば，自分がよく話を聞くことが，校長先生が話しやすい空気を作り，学校のためになると捉えることができる。「規則正しい生活を送るようにしている。」では，自分が規則正しい生活を送ることで，家庭では家族が学校では学級などの周囲の人々も気持ちよく生活を送ることができる。その個人と集団の関係は，対等な関係ではなく，年上の大人が存在したり，フォーマルな集団であったりする。そこで，敬意を払う対象であると考え，「周囲への敬意」と命名した。

第３因子は，個人と集団との関わりに関する項目である。第２因子との違いは，その集団が友達などの身近であり対等な相手である。「リーダーになったとき，いばってしまうことがある」「自分がされて嫌なことでも，つい友達にしてしまうことがある」など，自分の無遠慮な態度がインフォーマルな仲間集団の和を乱してしまうことにつながる項目である。仲間とともに健全な関係を築いていこうという内容であることから，「仲間への配慮」と命名した。

(2)　内的信頼性の検討

選定した項目について，尺度ごとに内的整合性によって信頼性の検討を行った。「思いやり」因子として選定した６項目の信頼性係数はα＝. 83であった。「周囲への敬意」因子として選定した５項目の信頼性係数はα＝. 75であった。「仲間への配慮」として選定した４項目の信頼性係数はα＝. 75であった。このことから，本尺度においては，信頼性係数が概ね確認できたと判断した。

(3)　小学生用道徳性得点

「思いやり」として選定した６項目の得点，「周囲への敬意」として選定した５項目の得点，「仲間への配慮」として選定した４項目の得点の合計を道徳性得点として算出した（表５）。

(4)　性差の検討

小学生用道徳性得点と下位尺度得点について，性別に

表３　小学生用道徳性暫定尺度

		項目
1	A	泣いている子がいたら，なぐさめたくなる。
2	A	低学年の子には優しくしている。
3	A	人が嫌な思いをしていると自分も悲しい気持ちになる。
4	A	困っている人を助けたくなる。
5	A	友達がけんかをしているのを見ても，平気である。(※)
6	A	自分がされて嫌なことでも，つい友達にしてしまうことがある。(※)
7	A	低学年のお手伝いをすると，うれしくなる。
8	A	けがや病気で苦しそうにしている子を見ると，自分まで苦しくなってくる。
9	B	自分に配られた給食が少なくても気にならない。(※)
10	B	「ずるいな。」と感じたときには，それを止めようとすると思う。
11	B	なかよしの友達が責められていたら，たとえその子がよくないと感じてもかばうと思う。(※)
12	B	遊びのルールを作るときには，みんなが公平に楽しめるようにルールを工夫することが大切だと思う。
13	B	協力して何かをやり遂げたときに，手柄を独り占めされると嫌な気持ちになることがある。
14	B	多数決をとるときに，一部の人が嫌な思いをすることはしょうがない。(※)
15	C	チームで競っているときに，仲間が自分のチーム以外を応援していても問題はない。(※)
16	C	学級のために，当番の仕事はやり遂げようとしている。
17	C	学級のみんなで決めたことでも，自分が納得していなければ，守らないことがある。(※)
18	C	自分のことよりも，学級のために働くようにしている。
19	D	朝礼などの校長先生の話すことはいつもよく聞くようにしている。
20	D	自分には尊敬できる人がたくさんいる。
21	D	きまりをやぶってしまうことがある。(※)
22	D	先生と話すときには，丁寧な言葉を使うなど，礼儀正しくしている。
23	D	学校で困ったことがあったら，先生に相談しようと思う。
24	D	自分がリーダーになったときに，いばってしまうことがあると思う。(※)
25	E	規則正しい生活を送るようにしている。
26	E	一度決めたことでも，辛いことやうまくいかないことがあると，あきらめることが多い。(※)
27	E	しょうがなくうそをついたときに，心にモヤモヤした気持ちが残る。
28	E	何か一生懸命に取り組んでいることがある。

(※) は逆転項目

表４　小学生用道徳性尺度因子分析の結果

	項目	*F1*	*F2*	*F3*
第１因子　思いやり　($\alpha = 0.83$)				
8	けがや病気で苦しそうにしている子を見ると，自分まで苦しくなってくる。	0.85	-0.13	-0.15
1	泣いている子がいたら，なぐさめたくなる。	0.78	0.00	0.06
3	人が嫌な思いをしていると自分も悲しい気持ちになる。	0.73	0.02	-0.05
4	こまっている人を助けたくなる。	0.57	0.17	0.12
27	しょうがなくうそをついたときに，心にモヤモヤした気持ちが残る。	0.47	0.06	0.05
7	低学年のお手伝いをすると，うれしくなる。	0.43	0.18	0.07
第２因子　周囲への敬意　($\alpha = 0.75$)				
19	朝礼などの校長先生の話すことはいつもよく聞くようにしている。	0.01	0.76	-0.14
25	規則正しい生活を送るようにしている。	-0.08	0.72	-0.05
16	学級のために，当番の仕事はやりとげようとしている。	0.09	0.57	0.03
12	遊びのルールを作るときには，みんなが公平に楽しめるようにルールを工夫することが大切だと思う。	0.11	0.52	0.00
22	先生と話すときには，丁寧な言葉を使うなど，礼儀正しくしている。	-0.01	0.49	0.11
第３因子　仲間への配慮　($\alpha = 0.75$)				
24	自分がリーダーになったときに，いばってしまうことがあると思う。(※)	-0.03	-0.20	0.71
21	きまりをやぶってしまうことがある。(※)	-0.06	0.10	0.68
6	自分がされて嫌なことでも，つい友達にしてしまうことがある。(※)	-0.05	0.12	0.65
17	学級のみんなで決めたことでも，自分が納得していなければ，守らないことがある。(※)	0.10	-0.03	0.62

因子間相関	*F1*	*F2*	*F3*
F1	−	0.68	0.42
F2		−	0.55
F3			−

表５　小学生用道徳性得点と下位尺度得点の基礎統計量

	(n)	M	SD
道徳性	249	79.82	13.84
思いやり	251	32.06	7.24
周囲への敬意	249	29.04	4.77
仲間への配慮	250	18.72	5.40

よる平均得点を算出し，１要因の t 検定を行った（表６）。「思いやり」「周囲への敬意」の分析で等分散性が棄却されたため，*Welch* の検定を実施した。「道徳性」については，有意な差が見られた。($t(247) = 5.26$, $p < .01$) この結果と平均値を見ると，女子は男子より得点が高いと解釈できる。「思いやり」については，有意な差が見

表６　小学生用道徳性得点と下位尺度の性差

	男子（n=123）		女子（n=126）				
	M	SD	M	SD	t 値	自由度	
道徳性	75. 39	14. 59	84. 15	11. 57	-5. 26	247	＊＊
思いやり	29. 48	7. 94	34. 63	5. 45	-5. 95	216	＊＊
周囲への敬意	28. 29	5. 33	29. 78	4. 05	-2. 47	228	＊
仲間への気遣い	17. 62	5. 43	19. 75	5. 16	-3. 17	247	＊＊

＊p＜. 05　＊＊p＜. 01

られた。(t(216)=5. 95, p＜. 01）この結果と平均値を見ると，女子は男子より得点が高いと解釈できる。「周囲への敬意」については，有意な差が見られた。(t(228)=2. 47, p＜. 05）この結果と平均値を見ると，女子は男子より得点が高いと解釈できる。「仲間への気遣い」については，有意な差が見られた。(t(247)=3. 17, p＜. 01）この結果と平均値を見ると，女子は男子より得点が高いと解釈できる。

(5)　学年差の検討

小学生用道徳性得点と下位尺度得点について，学年による平均得点を算出し，１要因の分散分析を行った（表７)。「道徳性」については有意な差が見られなかった。(F (2, 246) =1. 73, MSe =190. 40, n.s.)「周囲への敬意」については有意な差が見られなかった。(F (2, 246) =0. 85, MSe =52. 66, n.s.)「周囲への敬意」については有意な差が見られなかった。(F (2, 246) =1. 20, MSe = 22. 75, n.s.)「仲間への気遣い」については有意な差が見られ（F(2, 246)=4. 05, MSe =28. 35, p＜. 05）この結果と平均値を見ると，学年が上がるにつれて，得点が高くなっていると解釈できる。

4　考察と課題

(1)　小学生版道徳性尺度について

道徳基盤理論を基にした道徳性尺度について，「思いやり」「周囲への敬意」「仲間への気遣い」の３つの下位尺度から構成されることが明らかになった。また，３つの下位尺度の相関がすべて正の相関ということから，道徳性を測る上で妥当な構成要素と判断した。

「思いやり」は，「ケア／危害」基盤に基づく項目が多くあり，内容的にも近い。小学校の中でも，友達がけがをしたら保健室まで付き添って行く様子や，けがをして痛がっている友達を見れば，辛そうな表情を浮かべながら心配する様子など，子供であっても，幼少の者や仲間を守り，気遣うというモジュールは存在していると考えらえる。「思いやり」の下位尺度はどちらかというと生得的なものであり，これらの行動することで，自分の心が満たされるという視点もある。

「周囲への敬意」は「権威／転覆」基盤にやや近い内容である。この項目に含まれる内容は個人と学級や家庭などの自分より上位の集団との関りに関するものである。行動への心構えであり，態度として捉えることもできる項目であるが，その根底にはその集団に貢献したいという思いが含まれていると考える。また，その秩序を破ることで，その集団に迷惑を掛けたくないという感情もあるだろう。

「仲間への気遣い」は「忠誠／裏切り」基盤に近い内容である。内容として，仲間集団でお互いに気持ちよく過ごすために必要な項目が含まれている。今回，調査の対象とした４～６年生はギャング・エイジから思春期に差し掛かる時期である。田中（2016）は子供の仲間集団の特徴として「対等性」について言及している。対等であるがゆえに,「大人－子供」関係では許されることでも，子供同士では許されないことも多く，たとえば，「約束を破る」とか「嘘をつく」といった行為は，仲間集団の中では許されるとは限らず，むしろ，悪評が立って，他の子供集団にも入れなくなる危険すらあるということに触れている。家族集団とは異なる，インフォーマルな集団は子供にとって重要なものである。その集団の中で楽しく生活を送りたいと願ったり，逆にその集団から排除されたりすることを怖れる思いは，この時期の小学生ならではのものと捉えることができる。

(2)　小学生用道徳性尺度の性差と学年差について

小学生道徳性尺度において，すべての尺度において，有意差が見られ，女子の方が男子よりも高い得点となった。この傾向は道徳性を測る別の研究でも同様の結果が見られている。DIT によって，小学校高学年の道徳的判断の水準を調査した櫻井（2011）は「多くの年齢層で道徳判断の発達に性差が認められ，男子に比べて女子の発達段階の方が有意に高い。」と結論付けている。滝聞ら(1995) の標準化された尺度「HEART」を用いた研究でも，「行動得点，形成得点ともに女子の方が男子よりも一貫して高い。」としている。Kohlberg（1969）の例話を基に考察した山岸（1976）は「女子に対しては男子に比べ，よい子であること，やさしく親切であることへの期待が大きいことと関連がある。」と考察している。

学年差については，「仲間への気遣い」以外の尺度は高学年になるにつれて少し点数が上がるが，有意差はな

表７　小学生用道徳性得点と下位尺度の学年差

	４年生（n=43）		５年生（n=153）		６年生（n=53）				
	M	SD	M	SD	M	SD	自由度	F値	多重比較
道徳性	78. 51	16. 48	79. 12	13. 21	82. 92	13. 09	2, 246	1. 73 n.s.	
思いやり	30. 88	7. 95	32. 18	7. 35	32. 79	6. 36	2, 246	0. 85 n.s.	
周囲への敬意	29. 67	5. 26	28. 67	4. 70	29. 60	4. 55	2, 246	1. 20 n.s.	
仲間への気遣い	17. 95	6. 81	18. 27	4. 70	20. 53	5. 66	2, 246	4. 05*	6年>5年=4年

＊p＜. 05　＊＊p＜. 01

かった。「仲間への気遣い」は学年が上がるにつれて有意に高くなった。これは，小学校での集団生活や道徳教育を通じて，仲間と過ごすために必要なスキルについて経験を重ねながら学んでいるためだと考える。例えば自分の思いだけを主張していても友達には受け入れられないことや，うそについても許されるうそや許されないうそ，相手を思うが故のうそなどがあるということについて，実感を通しながら学んでいる発達段階である。この下位尺度は，対等性を重視する小学校高学年の児童が身に付けようとしている道徳性であり，まさに Haidt の「社会的学習」なのではないかと考える。

⑶　今後の課題

今回の研究で，道徳教育の効果を測るための小学生用の尺度を作成することができた。今後，大切なことは優れた道徳教育の実践である。今回の研究から，「仲間への気遣い」については，小学校高学年の道徳性を伸ばす上で特に関連性の大きいものであることに気付いた。それを伸ばすためには，教師は児童にどのような働きかけを行えばよいのか，また，道徳教育を補充，深化，統合する道徳科の授業改善の創意工夫について検討していく必要があると確信した。

引用文献

・秋田市立八橋小学校（2014）課題研究推進校実践発表会資料　https://www.edu.city.akita.akita.jp/acerc/kensyuu/H26/H26kadaibetumatome/03yabaseshou.pdf（2020年９月１日最終確認）
・青木美樹（2018）道徳とは何か？－その研究の変遷と道徳基盤理論の誕生　日本大学大学院総合社会情報研究科紀要　No. 19, 121－132
・青木美樹（2019）日本人の観念形態を探る心理学的アプローチ：―道徳基盤理論における道徳性と政治的志向性の考え方に基づいて―国際情報研究 16⑴, 12－23
・有光興記，藤澤文（2015）モラルの心理学　北大路書房
・曺慶鎬（2018）道徳基盤理論による外国人に関する意識の研究　駒沢社会学研究：文学部社会学科研究報告(50)，99－112
・Graham, J., Haidt, J., Koleva, S., Motyl, M., Iyer, R,Wojcik, S. P., & Ditto, P. (2013). Moral Foundations Theory: *The Pragmatic Validity of Moral Pluralism*. *Advances in Experimental Social Psychology*, 47, 55-130.
・萩生田伸子・繁桝算男（1996）順序付きカテゴリカルデータへの因子分析の適用に関するいくつかの注意点　心理学研究　67⑴，1―8
・Haidt, J. (2012) The Righteous Mind，髙橋洋訳（2014）社会はなぜ左と右に分かれるのか－対立を超えるための道徳心理学　紀伊国屋書店
・Hogan, R. (1973) Moral conduct and moral charac-ter: A psychological perspective. Psychological Bullentin, 79, 217-232.
・古畑和孝（1992）道徳性診断検査 HEART 小学生版　東京心理
・本田志穂・石丸彩香・宇都宮沙紀・山根倫也・小田美優・坂本和久・大江慶寛・小林仁美・有馬多久充・木寺碧・小杉孝司（2016）日本人にとって道徳はどのようなものとしてとらえられているか　山口大学教育学部研究論叢（第３部）66，95－106
・堀田竜次・假屋園昭彦（2006）児童における道徳的な「助け合い」の心に関する研究～児童版道徳性共感的側面尺度の開発～
・Iyer, R.S.P.Koleva, Graham, J., .Ditto, P, H, & Haidt, J. (2011) Understanding Libertarian Morality: *The Psychological Dispositions of Self-Identified Libertarians*（2020年６月９日最終確認）
・金井良太（2013）脳に刻まれたモラルの起源　岩波書店
・加藤千佐子（1989）新道徳教育全集　第８巻道徳的体験の指導　文溪堂　99
・北村英哉（2019）責任帰属に及ぼす道徳基盤と公正世界信念の影響　東洋大学社会学部紀要56⑵，39－48，
・Kohlberg,L. (1969) Stage and Sequence: The Cogn-itive Developmental Approach to Socialization. Goslin, D.A. (Ed) *Handbook of Socialization*. 347-480
・小杉考司（2012）現代学生の規範意識と態度⑶　研究論叢．第３部，芸術・体育・教育・心理62，119－123
・文部科学省（2017）平成29年度道徳教育指導者養成

研修ブロック説明会　行政説明資料「道徳教育の抜本的充実に向けて」
・文部科学省（2017）小学校学習指導要領解説総則編
・文部科学省（2017）小学校学習指導要領解説特別の教科道徳編
・村山綾・三浦麻子（2019）日本語版道徳基盤尺度の妥当性の検証―イデオロギーとの関係を通して―　心理学研究　90(2)，156－166
・新村出(編)（2018）広辞苑第七版　岩波書店，2064
・押谷由夫（2018）道徳性アセスメント HUMAN　図書文化
・押谷由夫（2018）道徳教育アセスメント BEING　図書文化
・Rest,J.(1979) Development in judging moral issues. University of Minnesota Press.
・崔玉芬・長島康雄（2019）学習指導要領の趣旨を活かす道徳性指標の方法論的検討―主として自分自身に関することについて―　日本義務教育学会紀要　第３号 2019，17－26
・櫻井育夫（2011）Defining Issues Test を用いた道徳判断の発達分析　教育心理学研究　59(2)，155－167
・杉原一昭（2018）ＴＫ式思いやりと豊かな心を育てるワーク　田研出版株式会社
・滝聞一嘉・古畑和孝・明田芳久・橋本康男・岡隆・岡本浩一・清水保徳（1995）道徳性の発達に関する心理学的基礎　（第８報告）：（その２）小・中学生の道徳性の学年差・性差の検討　日本教育心理学会総会発表論文集　37(0)，592
・田中理絵（2016）子ども社会とは何か　－ギャング・エイジの仲間集団研究－　子ども社会研究
・手島啓文・安保英勇（2017）．道徳的態度尺度の開発と信頼性・妥当性の検討　北海道心理学研究，39，30.
・和田実・石川泰地（2015）多次元的道徳性尺度の作成　名城大学人文紀要　51(1)，１－13
・山岸明子（1976）道徳判断の発達　教育心理学研究　24(2)，97－106
・山岸明子（1995）道徳性の発達に関する実証的・理論的研究　風間書房